

経営比較分析表（令和6年度決算）

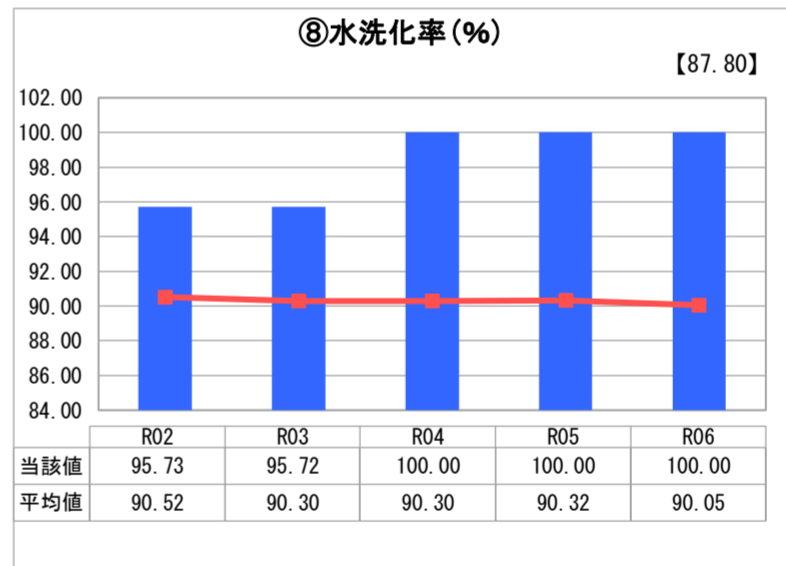
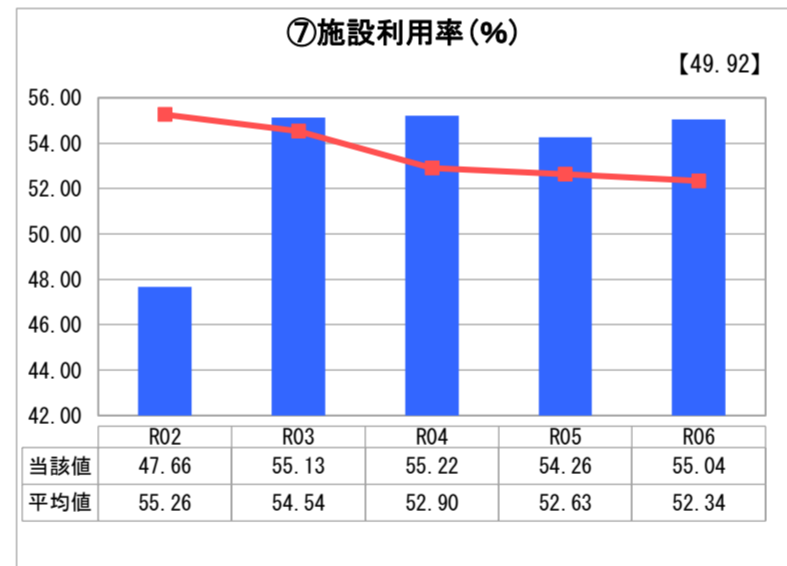
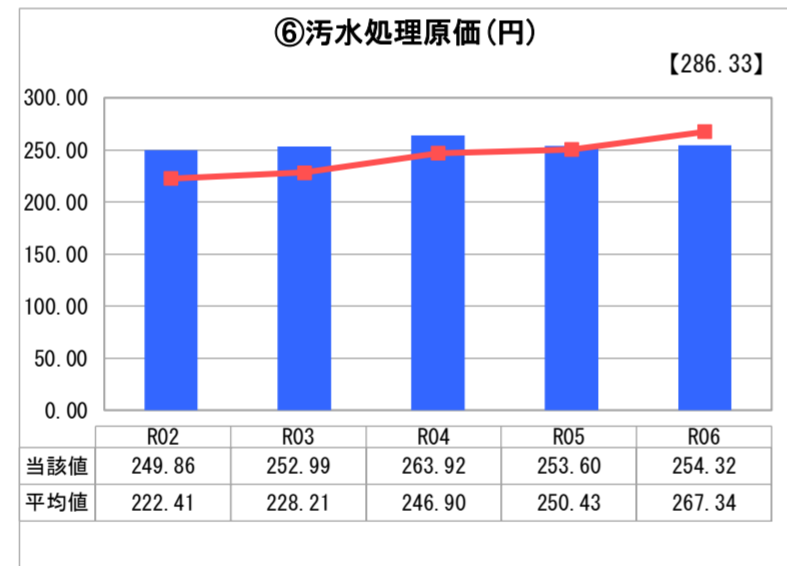
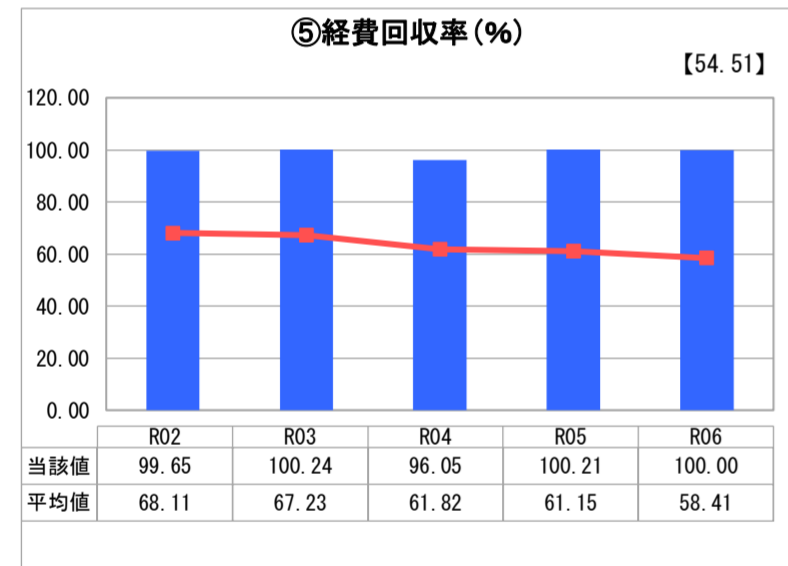
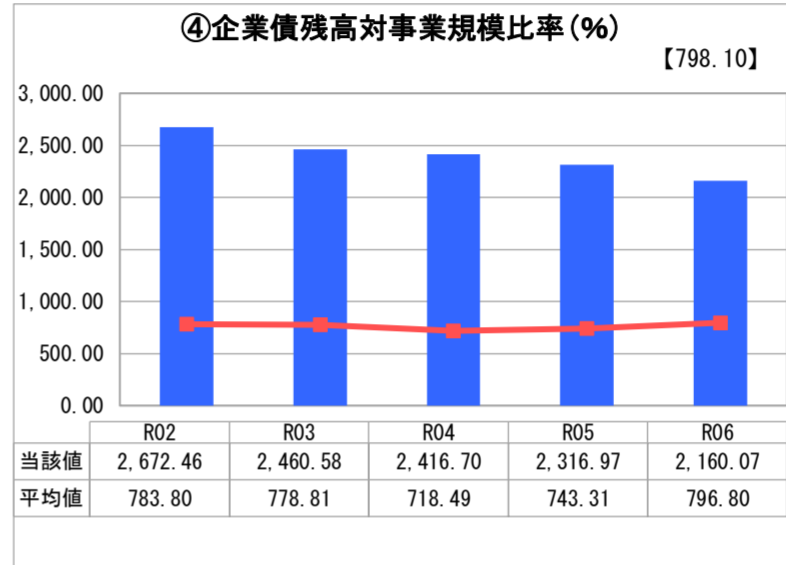
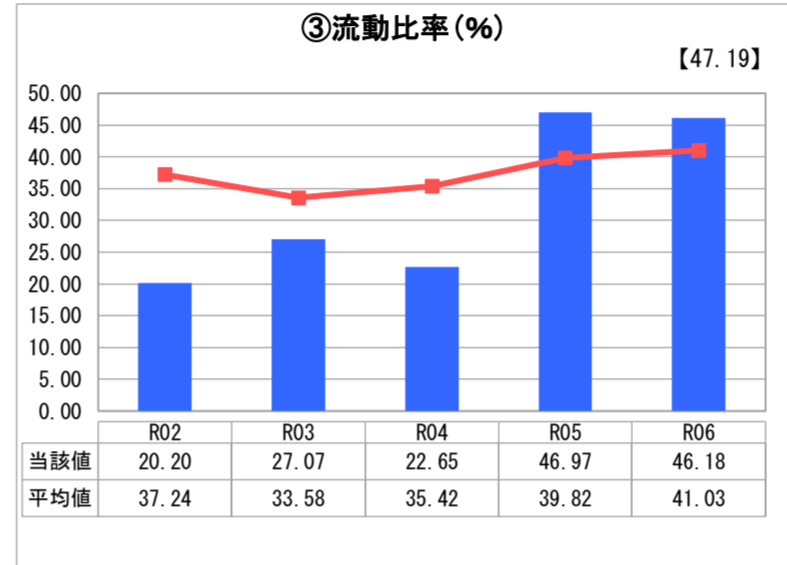
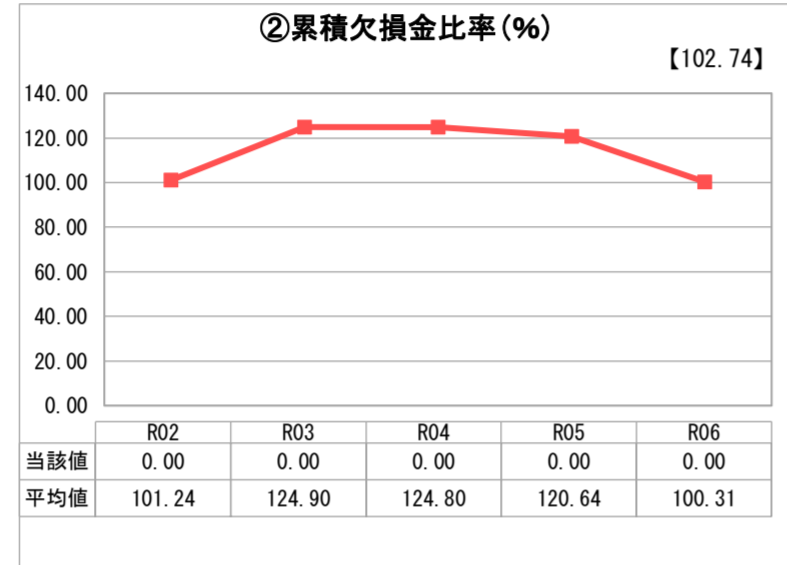
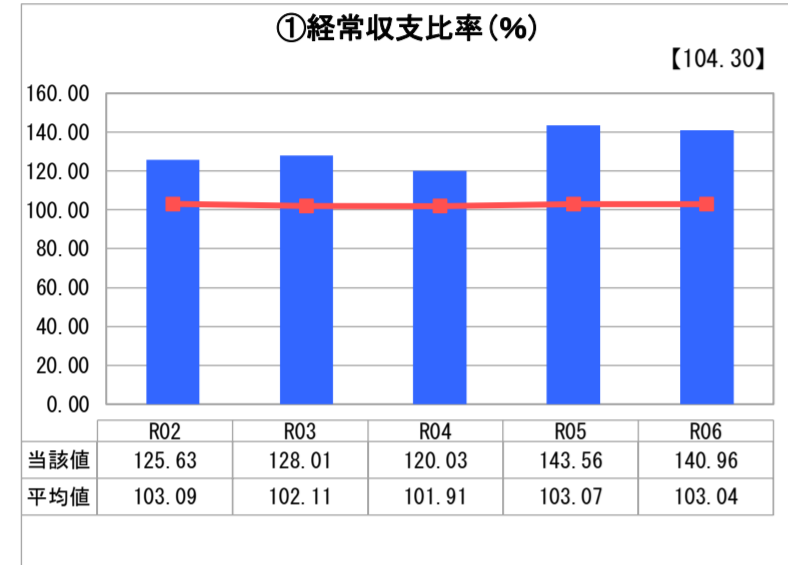
岩手県 金ケ崎町

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法適用 | 下水道事業 | 農業集落排水 | F1 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) |
| - | 60.12 | 28.73 | 83.18 | 5,060 |

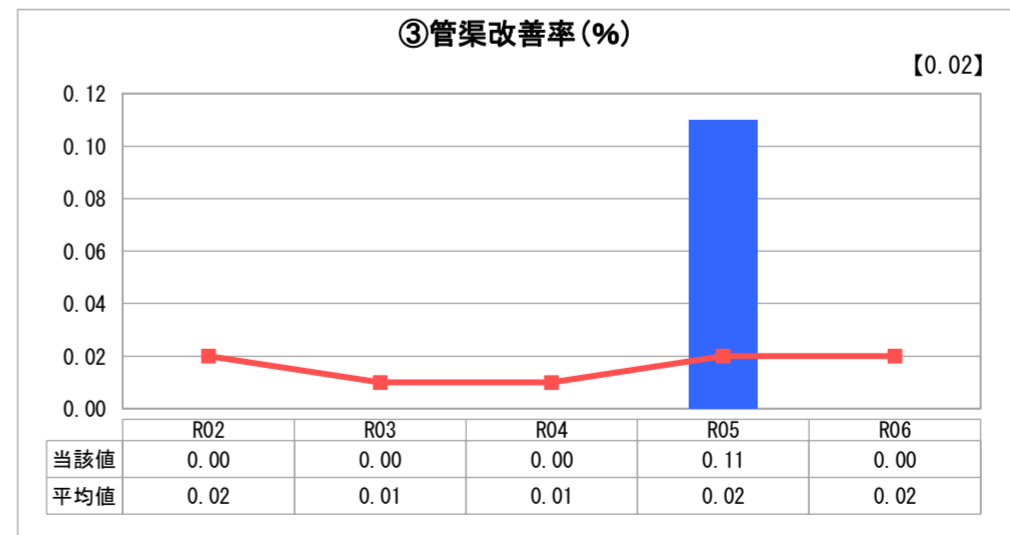
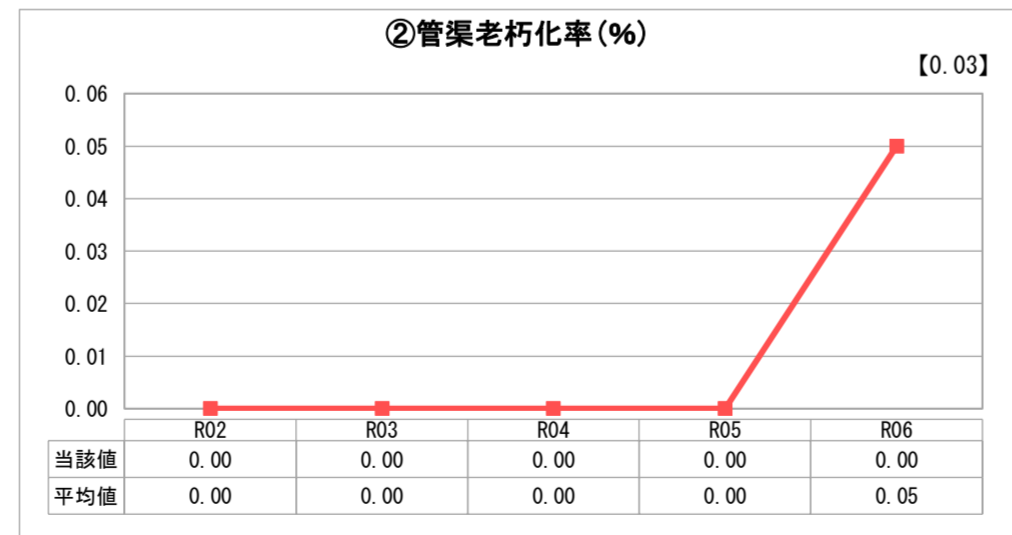
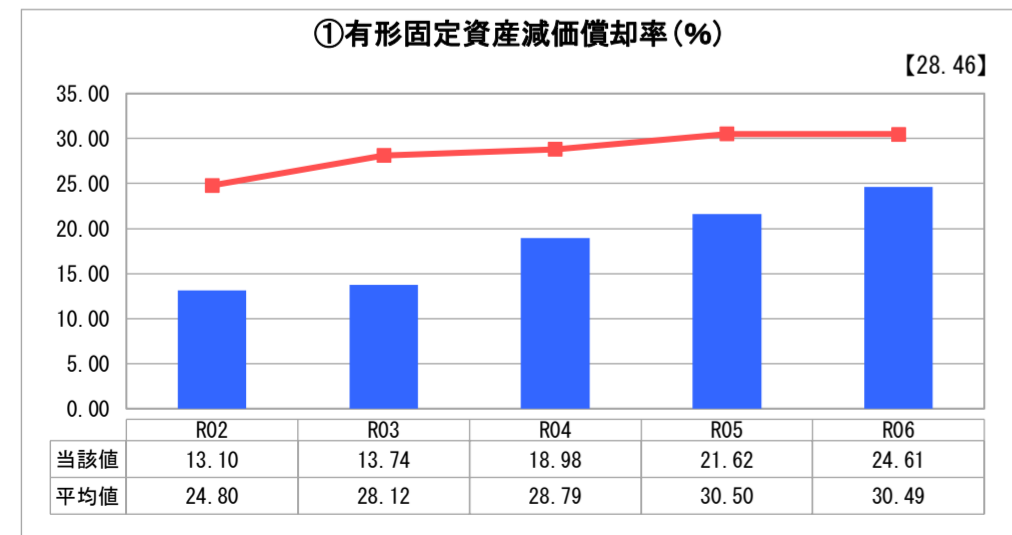
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 15,119 | 179.76 | 84.11 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 4,334 | 2.33 | 1,860.09 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値(当該値) |
| — | 類似団体平均値(平均値) |
| 【 | 令和6年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
令和2年度の使用料改定以降120%を上回っているものの、使用料収入を超える繰入金により収支の均衡を図っている。
- ② 流動比率
使用料改定により改善され、令和5年度以降、類似団体平均値を超えているが、企業債償還が依然として多額であり、低い水準となっている。
- ③ 企業債残高対事業規模比率
企業債残高が多額となっていることから比率が高い。令和2年度に使用料改定を実施したほか、企業債残高は年々減少してきていることから、比率は低下していくことが見込まれる。
- ④ 経費回収率
100%程度で推移しているが、繰入金により収支均衡を図っていることから、引き続き健全な経営に努めていく。
- ⑤ 汚水処理原価
類似団体平均程度であるが、物価高騰に伴い、今後、上昇が見込まれる。
- ⑥ 施設利用率
類似団体平均を上回るものの、55%程度にとどまっている。農業集落排水地区は、公共下水道区域と比べ、人口減少率が高く、今後、人口減少に伴う利用率低下が見込まれる。
- ⑦ 水洗化率
類似団体平均を上回っており、高い水準である。

2. 老朽化の状況について

- 昭和61年度から整備を開始し、30年以上経過する管路があるが、大規模な改築、更新を実施するほどの劣化の確認には至っていない。
- ① 有形固定資産減価償却率
類似団体を下回っているものの上昇傾向である。電気機械設備を中心に、耐用年数を超過している施設もあることから、計画的な更新を要する。
 - ② 管渠老朽化率、③ 管渠改善率
現時点では、耐用年数を超過した管路はないため、管路更新は実施していない。今後、管路の老朽化にもなって、更新をすべきか、個別処理に切り替えていくか検討していく必要がある。

全体総括

使用料収入のみでは、企業債の償還財源が不足することから、多額の一般会計繰入金により、収支均衡を図っている。

「金ケ崎町下水道事業中期経営計画」に基づき、令和2年4月に料金改定を実施したところ、一部指標の改善傾向がみられる。

農業集落排水区域では、急速な人口減少により、使用量が減少するとともに、物価高騰に伴う汚水処理費用の増加が見込まれ、営業収支の悪化が見込まれる。汚水処理原価を適切に回収できる使用料の設定が必要である。

処理場の機械電気設備の老朽化が進み、更新時期を迎えていくが、将来的な排水量に合わせた施設のダウンサイジングや公共下水道への接続等により、処理場の更新費用や維持管理費用の縮減を図る必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。